



**YOKKAICHI
PORT
AUTHORITY**



四日市港外貿コンテナ貨物 流動等調査の概要

国土交通省港湾局が令和5年11月の1ヶ月間において実施した
「全国輸出入コンテナ貨物流動調査」を基に分析を行い、その結果を概要版としてまとめたものです。

四日市港管理組合

四日市港利用優位圏

近隣の港湾(名古屋港・大阪港)と比較して四日市港との間の陸上輸送コストが最小となる地域を「四日市港利用優位圏」としました。

その範囲は次の方法により算出しています。

陸上輸送コスト

=

時間費用

+

走行費用

+

通行料金

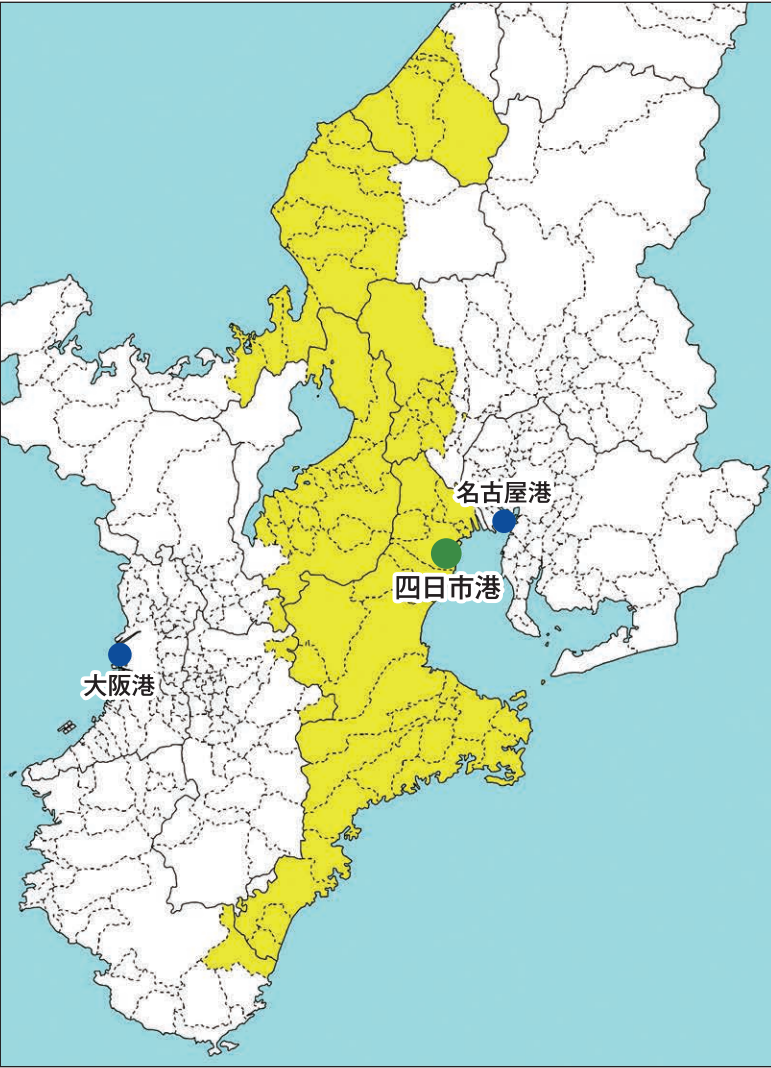
コンテナトレーラーの時間
当たり運行費用(人件費等) × 運行時間

コンテナトレーラーの距離
当たり走行経費(燃料費等) × 走行距離

特大車の高速料金
または都市高速料金

※起点は各市町村役場、終点は四日市港、名古屋港、大阪港の各コンテナターミナルとします。
※走行速度は高速道路80km/h、都市高速道路及び自動車専用道路60km/h、一般道路30km/hとします。

■四日市港との間の陸上輸送コストが最小となる市町村 (四日市港利用優位圏)



■四日市港利用優位圏の範囲

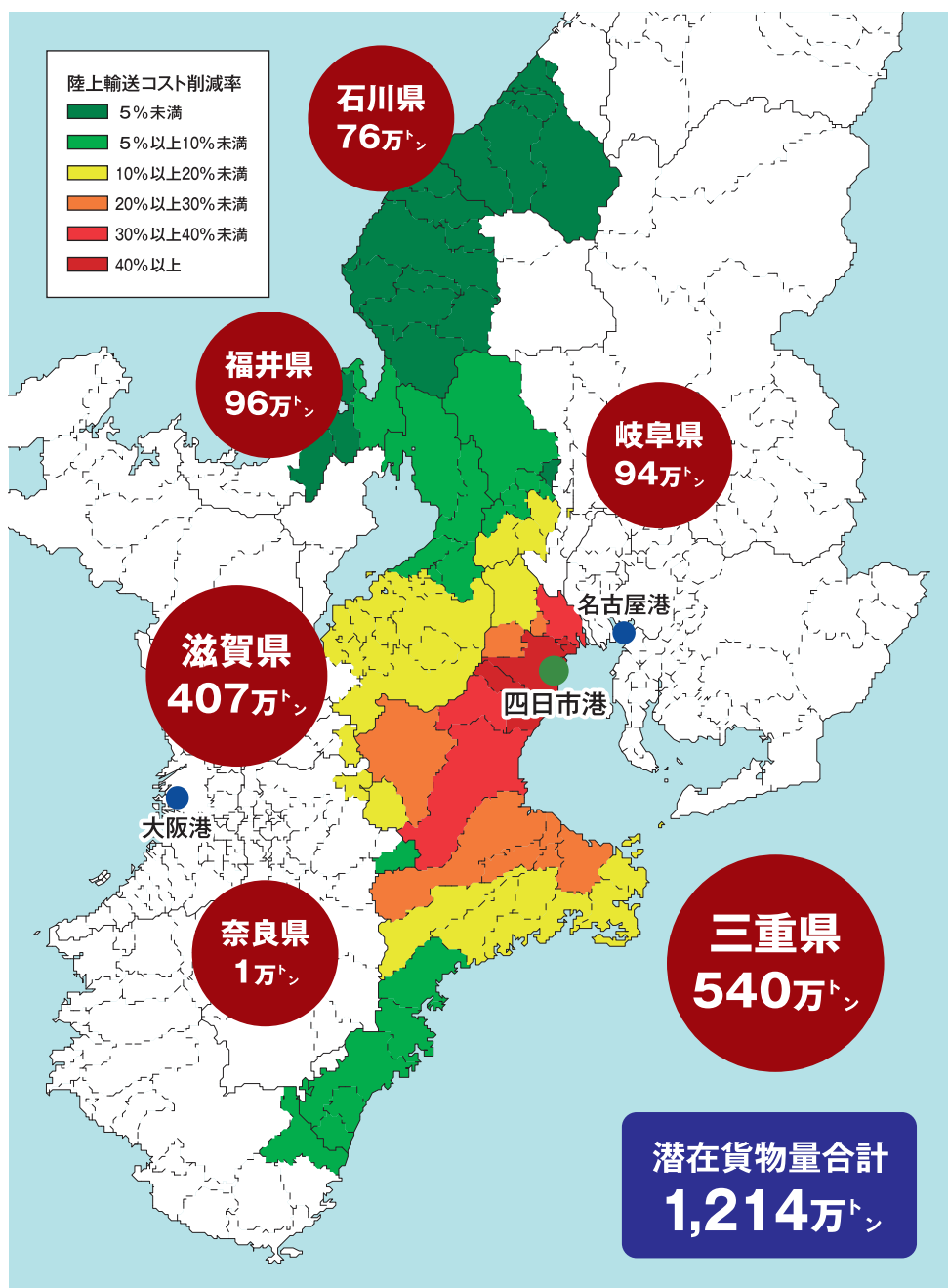
府 県	地 区	該当市町村
三重県	全地区	木曽岬町を除く全市町
滋賀県	湖東地区全域	近江八幡市、東近江市、湖南市、甲賀市、日野町、竜王町、愛荘町
	湖南湖西地区の大部分	草津市、守山市、栗東市、野洲市
	彦根長浜地区の全域	彦根市、長浜市、豊郷町、甲良町、多賀町、米原市
岐阜県	大垣地区の大部分	大垣市、養老町、垂井町、関ヶ原町、神戸町
	岐阜地区の一部	揖斐川町、大野町、池田町
福井県	福井地区の大部分	福井市、鯖江市、あわら市、坂井市、越前市、越前町、永平寺町、池田町、南越前町
	敦賀小浜地区の大半	敦賀市、美浜町、若狭町
石川県	石川県の一部	白山市、小松市、加賀市、能美市、野々市市、川北町
京都府	京都府の一部	南山城村
奈良県	天理地区の一部	山添村、御杖村

○四日市港利用優位圏は、三重県では木曽岬町を除く全域、滋賀県でも大津市・高島市を除く全域、岐阜県では大垣市周辺の地域となるほか、石川県や福井県などにも広がっています。

四日市港利用による陸上輸送コスト削減率と 四日市港利用優位圏における年間外貿コンテナ貨物量

四日市港利用優位圏において、他港(四日市港の次に陸上輸送コストが低くなる港)を利用した場合と比較して四日市港を利用することで達成される陸上輸送コストの削減率、および四日市港利用優位圏で生産・消費される年間外貿コンテナ貨物量の推計結果を表すと、下図のようになります。

■他港利用と比較した四日市港利用による陸上輸送コスト削減率と潜在貨物量



■四日市港利用優位圏における
外貿コンテナの潜在貨物量

三重県	540万トン
滋賀県	407万トン
岐阜県	94万トン
福井県	96万トン
石川県	76万トン
奈良県	1万トン
合 計	1,214万トン

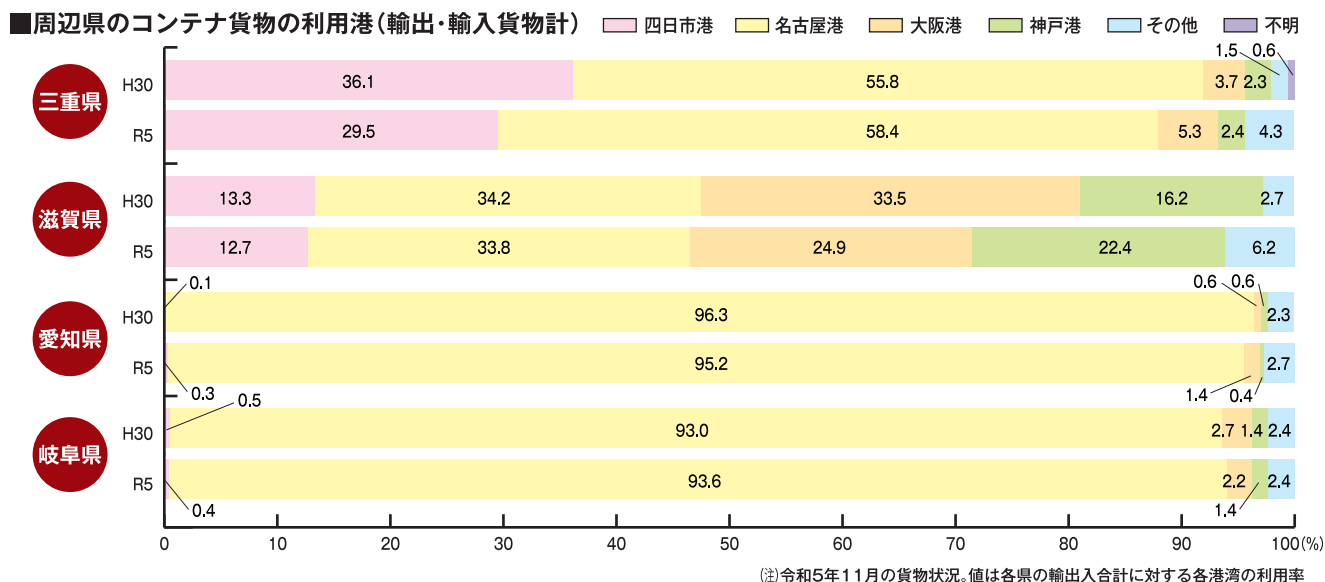
(注)令和5年11月時点の貨物量を基
に、年間の貨物量を試算

※四日市港利用優位圏内で生産・消費される外貿コンテナ貨物は、全て四日市港で取り扱えるわけではありませんが、陸上輸送コスト削減の観点からみれば四日市港の潜在的な貨物といえます。

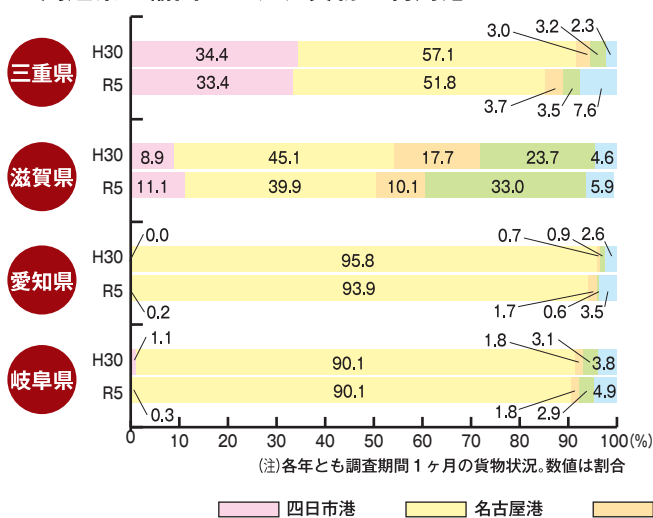
○四日市港利用優位圏における陸上輸送コスト削減率を詳細にみると、三重県は大紀町、大台町より北で10%以上、滋賀県では湖東地区、湖南湖西地区の大部分が10～20%程度、彦根長浜地区は6～13%程度、岐阜県では大垣市周辺で10%程度となり、福井県の大部分と石川県で5%未満となります。

1 四日市港周辺県の外貿コンテナ貨物の港別利用率

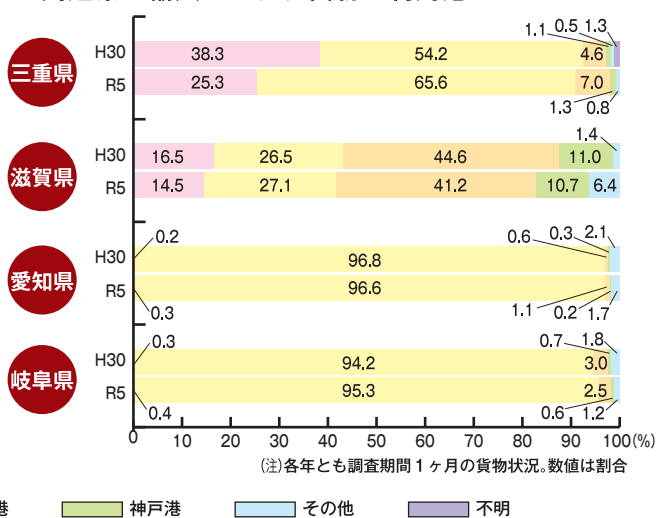
令和5年における三重県の外貿コンテナ貨物の四日市港利用率をみると、平成30年の36.1%から29.5%に低下しました。滋賀県では平成30年の13.3%から令和5年に12.7%となり、ほぼ横ばいとなっています。



■周辺県の輸出コンテナ貨物の利用港



■周辺県の輸入コンテナ貨物の利用港

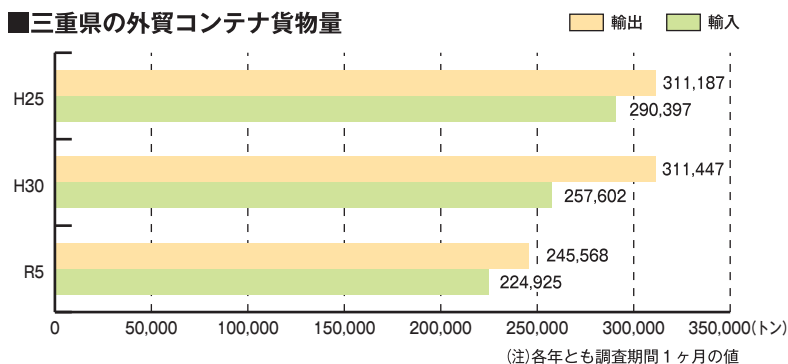


2 三重県の外貿コンテナ貨物の状況

(1)貨物量

令和5年における三重県の外貿コンテナ貨物量をみると、輸出は約24.6万トと平成30年から約6.6万ト、輸入では約22.5万トと平成30年から約3.3万ト減少しました。

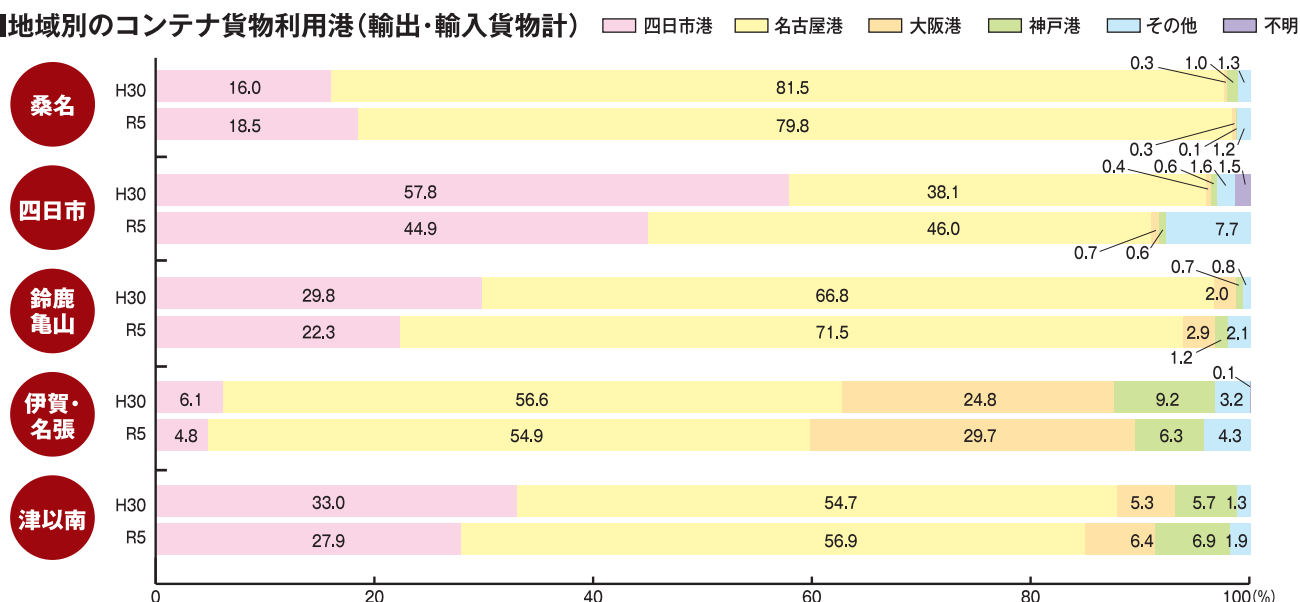
■三重県の外貿コンテナ貨物量



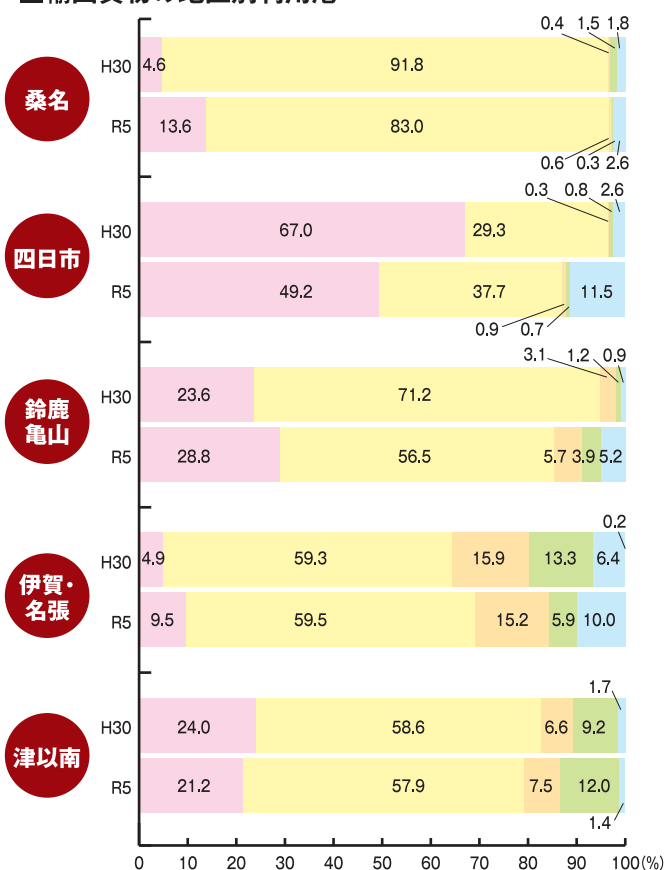
(2)地区別の利用港

令和5年における三重県の外貿コンテナ貨物の四日市港利用率を地区別にみると、桑名地区では平成30年の16.0%から18.5%に上昇しました。一方、四日市地区が平成30年の57.8%から44.9%に低下したのをはじめ、鈴鹿亀山地区、伊賀・名張地区、津以南地区でもそれぞれ利用率が低下しました。

■地域別のコンテナ貨物利用港(輸出・輸入貨物計)

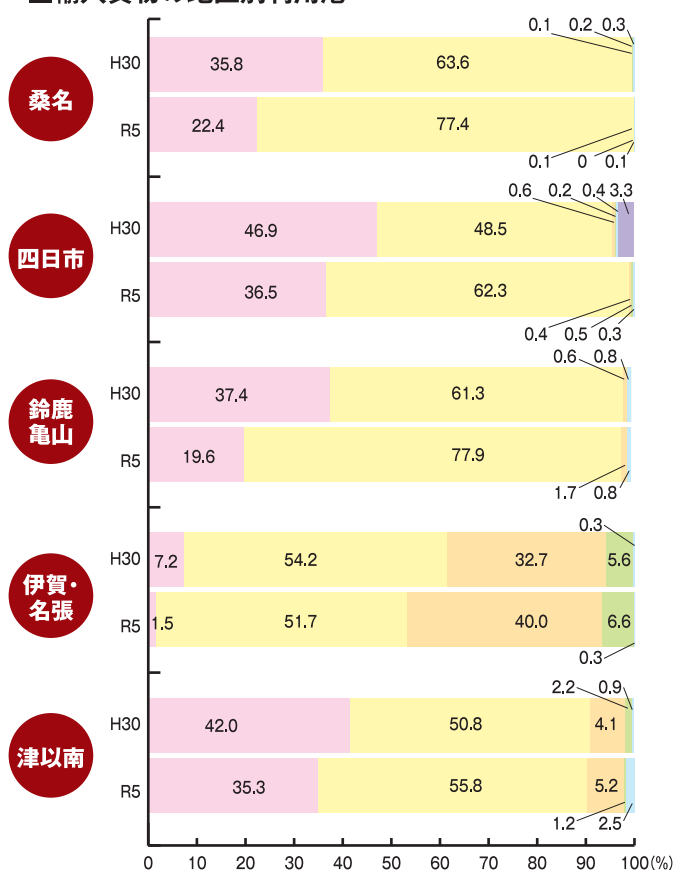


■輸出貨物の地区別利用港



(注)各年とも調査期間1ヶ月の貨物状況。
値は各地区の輸出量に対する各港湾の利用率

■輸入貨物の地区別利用港



(注)各年とも調査期間1ヶ月の貨物状況。
値は各地区の輸入量に対する各港湾の利用率

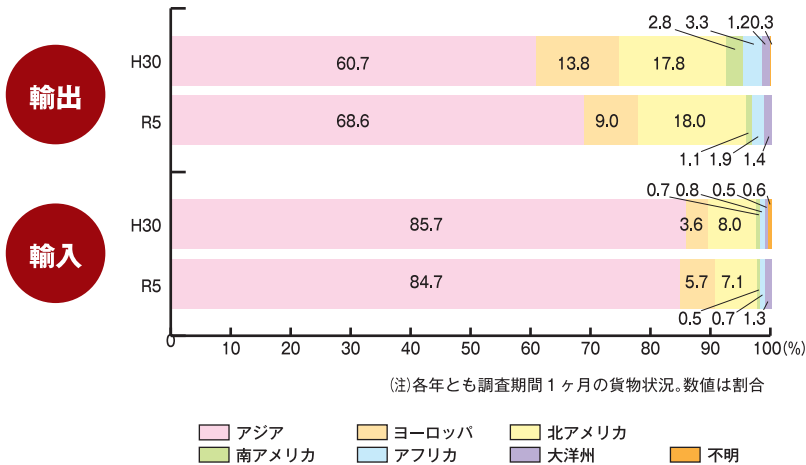
四日市港 名古屋港 大阪港 神戸港 その他 不明

(3)仕向・仕出地域別の貨物量の割合

令和5年における三重県の輸出コンテナ貨物の仕向地域をみると、貨物量の割合が高い順に①アジア、②北アメリカ、③ヨーロッパ、④アフリカ、⑤大洋州、⑥南アメリカとなりました。一方、輸入コンテナ貨物の仕出地域は①アジア、②北アメリカ、③ヨーロッパ、④大洋州、⑤アフリカ、⑥南アメリカの順となりました。

輸出・輸入ともに最も割合が高いのはアジアであり、輸出で約69%、輸入で約85%を占めています。

■仕向・仕出地域別の貨物量の割合

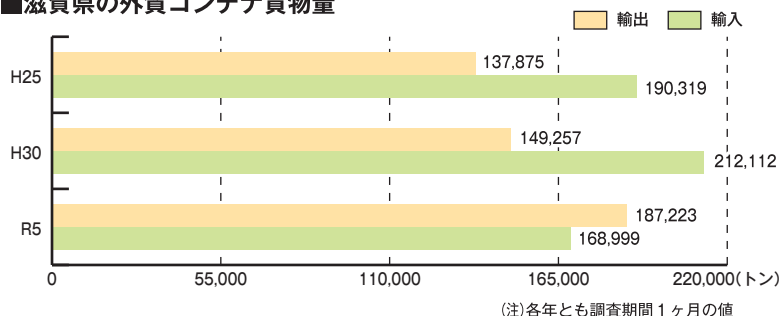


3 滋賀県の外貿コンテナ貨物の状況

(1)貨物量

令和5年における滋賀県の外貿コンテナ貨物量をみると、輸出は約18.7万トンと平成30年から約3.8万トン増加しました。一方、輸入については約16.9万トンと平成30年から約4.3万トン減少しました。

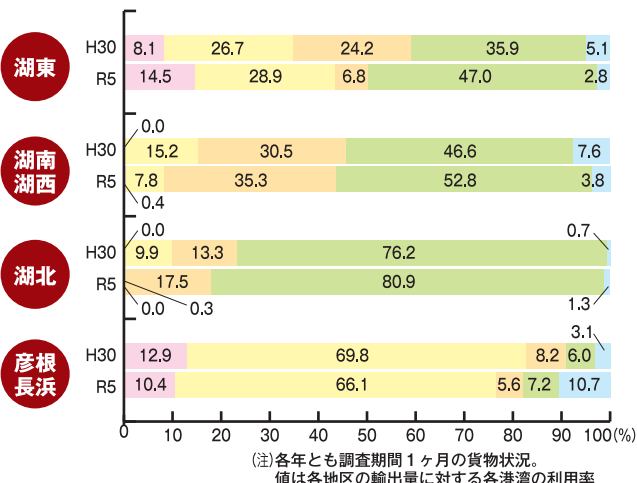
■滋賀県の外貿コンテナ貨物量



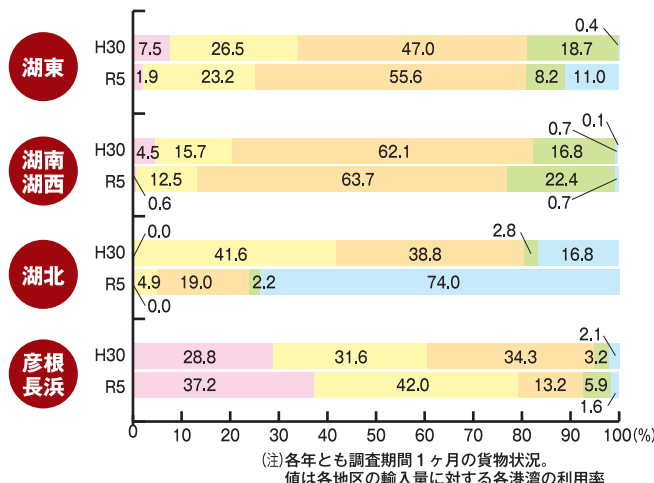
(2)地区別の利用港

令和5年における滋賀県の外貿コンテナ貨物の四日市港利用率を地区別にみると、平成30年から輸出貨物で湖東地区の利用率が上昇する一方、彦根長浜地区で低下しました。また、輸入貨物では彦根長浜地区が上昇する一方、湖東地区、湖南湖西地区で低下しました。

■輸出貨物の地区別利用港



■輸入貨物の地区別利用港



四日市港 名古屋港 大阪港 神戸港 その他 不明

4 四日市港利用優位圏における外貿コンテナ貨物取扱状況

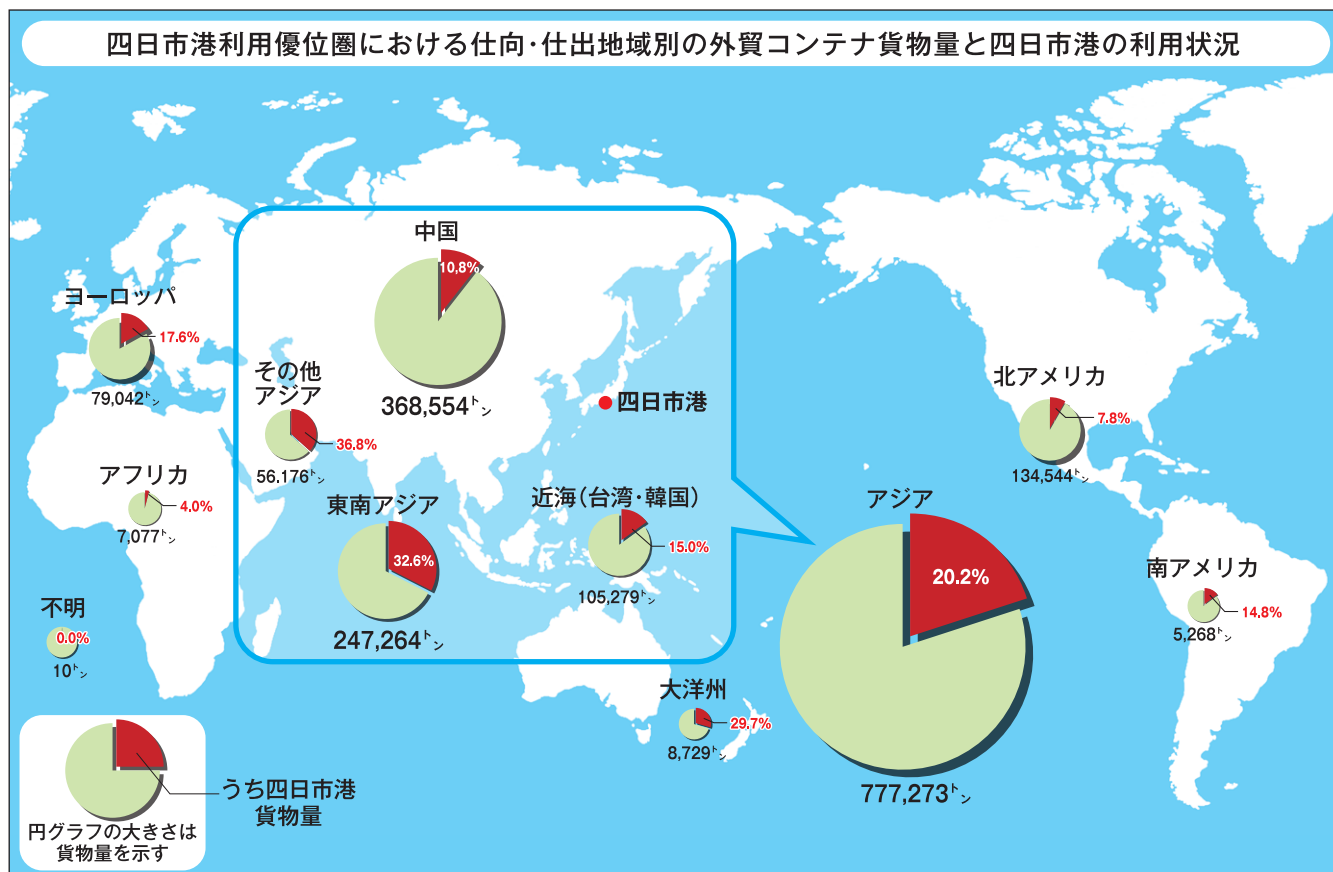
四日市港利用優位圏の外貿コンテナ貨物量と四日市港利用率を仕向・仕出地域(国)別にみると、以下の通りとなりました。

○貨物量については、アジアが約78万トンと最も多くなりました。アジアの中では、中国が最も多く約37万トンとなり、以下、多い順に東南アジア(約25万トン)、近海(韓国・台湾)(約11万トン)と続きます。

また、アジアについて貨物量が多いのは、北アメリカ(約13万トン)となり、以下、ヨーロッパ(約7.9万トン)、大洋州(約0.87万トン)、アフリカ(約0.71万トン)、南アメリカ(約0.53万トン)と続きます。

○四日市港利用率については最も貨物量が多いアジアで20.2%となりました。アジアの中では、中国が10.8%、近海(韓国・台湾)が15.0%、東南アジアで32.6%、その他アジアが36.8%となりました。

また、他地域の貨物の四日市港利用率をみると、北アメリカで7.8%、ヨーロッパで17.6%、大洋州で29.7%などとなっています。



(注)調査期間 1ヶ月の貨物状況。



空から見た四日市港(霞ヶ浦地区)



四日市港管理組合
YOKKAICHI PORT AUTHORITY

企画課

TEL 059-327-7156 FAX 059-366-7048

〒510-0011 三重県四日市市霞2丁目1-1

[URL] <https://www.yokkaichi-port.or.jp>

[E-mail] kikaku@yokkaichi-port.or.jp